

新居浜工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル） 令和7年度自己点検・評価結果

評価日時：令和8年6月18日

会議場所：新居浜工業高等専門学校

会議名称：点検・評価運営委員会

目的：令和7年度の数理データサイエンスAI教育プログラム（応用基礎レベル）の内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価項目	自己点検・評価結果	自己点検・評価理由
プログラムの履修・修得状況について	改善を要する	本校では所属の学科・学年に開設されている授業科目（同一時間帯に開講される選択科目は受講申告によりいずれかを選択）は、すべて受講しなければならないように定められている。そのため、令和7年度の本教育プログラムのうち、所属の学科・学年に開設されている科目については履修者は100%であり、修得率もほぼ100%に近くに達している。 その一方で、自由選択科目である「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」「データサイエンスとAI（基礎）」「データサイエンスとAI（応用）」については履修者が少なく、プログラムの修得者も少ない。これら自由選択科目の履修者を増やす方策として、受講登録の期日の前には教室にチラシを掲示しているが、さらなる周知や浸透のための方策が必要だと考えられる。
学修成果について	良好	本校では本教育プログラムに係わる科目だけでなく所属の学科・学年に開設されている授業の全科目の授業アンケートを実施している。本教育プログラムに係わる科目のうち、所属の学科・学年に開設されている授業科目のアンケート結果では令和7年度授業アンケートの「この授業の学習目標に対する自分の達成度はどのくらいだと思いますか」の項目の平均値は「80%以上」が61%、「60%以上」が348%、「60%未満」が4%であり、「60%以上」が96%であることから、履修者の達成度は高いと評価できる。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度について	良好	本教育プログラムに係わる科目の令和7年度授業アンケートの「内容は理解できましたか」項目の平均値は「よく理解できた」が73%、「どちらともいえない」が25%、「理解できなかった」が2%であった。以上のことから、履修者は内容の理解度が高いと評価できる。自由選択科目の「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」「データサイエンスとAI（基礎）」「データサイエンスとAI（応用）」については修得者が少なくいため理解度の評価ができなかった。
後輩等他の学生への推奨度について	－	「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」が自由選択科目であるため本プログラムの修得者が少く、十分なアンケート結果が得られていないので、推奨度についても十分な結果が得られていない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況について	改善を要する	「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」「データサイエンスとAI（基礎）」「データサイエンスとAI（応用）」は自由選択科目であるため履修者が少なく、これによってプログラム修了者が少ない。自由選択科目の受講登録の期日の前にはこれらの科目を説明するチラシを教室に掲示し、周知を行っている。 チラシだけでは効果が足りないと感じられるので、動画での紹介や模擬授業などを行いプログラムとこの科目のPRをすることを考えている。集中講義での実施のため、受講を登録する日と講義開始日が離れているため、講義に対する実感が持ちにくいように感じており、実施のスケジュールについても再考することを考えたい。 また、電気情報工学科については所属の学科・学年に開設されている授業科目で履修・修得できるようプログラムが変更がなされ、自由選択科目を履修せずにプログラムが修了できるようにした。この変更によるプログラム履修生が生じるのは令和8年度以降となる。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について	－	令和7年3月卒業時点で本教育プログラム修了者が初めて生じた。進路、活躍状況、企業等に係わる調査を行うには修了者が少ない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	良好	本校では毎年運営諮問会議にて外部評価を受けており、プログラムの実施についても報告し、その意見をプログラムに反映できるようにしている。

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」 「学ぶことの意義」を理解させること	良好	本教育プログラムに係わる科目において、先進的な事例を紹介しつつ、いかにAIが私たちの生活を支える仕組みや様々な企業の生産や管理に取り組まれているかを講義している。授業アンケートや理解度調査アンケートなどから、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を伝えられるよう取り組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	良好	本教育プログラムに係わる科目は、授業アンケートを通して年度ごとに改善される体制を取っている。また、授業に用いた教材をLMSを用いて配布することで自学自習に役立てられる環境を整備している。 また、「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」やこれの四国支部ブロックの会員校であり、シンポジウムやワークショップなどに参加することで数理データサイエンスAIプログラムに関する情報を得ることに務めている。数理・データサイエンス・AIを研究のテーマにしていたり利用している教員とも連携し、研究の最前線における利活用の情報を共有している。